

平成 29 年度学校目標

| 学校目標 | 取 組 の 内 容 | |
|--|---|--|
| | 具体的な方策 | 評価の観点 |
| 1<教育課程・学習指導> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングの視点に立った授業を全ての教科・教員で取り組む。 ・平成 30 年度入学選抜から実施する在県外国人等特別募集の準備を着実に実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・全ての教員が 1 回は生徒の主体的・対話的で深い学びを進める授業や ICT を活用した授業に取り組むことをめざす。 ・既に在県外国人等特別募集を実施している高等学校から情報を収集し、制度を構築する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価の項目 1 における「4 かなり当てはまる」の回答率 5 割以上となったか。 ・円滑に在県外国人等特別募集を実施することができたか。 |
| 2<生徒指導・支援> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動や学校行事・委員会活動への積極的参加を促し、個々の生徒が充実して高校生活が送れるよう取り組む。 ・多様な生徒によりきめ細かく対応するために、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを有効活用する。また、職員の情報共有、理解の共有を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・部活動や学校行事・委員会活動等における生徒の自主的・自立的運営を促すとともに、新入生オリエンテーションを充実させる。 ・スクールソーシャルワーカーの活用方法の周知を含め、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの有効活用をするためのシステムを構築する。ケース会議から専門機関への連携をよりスムーズに、わかりやすくする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率の向上が図れたか。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの周知と有効活用ができたか。ケース会議の開催が、生徒の問題解消にどのように役立ったか、また、専門機関との連携をどのように実施し効果をあげたか。 |
| 3<進路指導・支援> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々の進路希望の実現をめざし、進学指導の充実を図る。 ・各年次・学科ごとのキャリア教育プログラムを実践するとともに、検証する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の希望に基づき、模擬試験等のデータなどを分析・活用することにより、センター試験・一般受験による進路実現の増加をめざす。 ・2、3 年次の学科ごとのキャリア教育プログラムによる支援を進めるとともに、1 年次の学科再編に合わせたキャリア教育プログラムを実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・全学科において、センター・一般入試における受験決定率が平成 28 年度より増加したか。 ・各年次のキャリア教育プログラムの検証を行い、成果と反省点についてグループ・年次間で共有し、改善を進めることができたか。 |
| 4<地域等との協働> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の特色を活かした、小・中学校・大学等との連携を実施する。 ・清掃活動やふれあいコンサート等のイベントへの参加を通じた地域貢献活動に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・弥栄トリニティや各種行事、部活動などにより、積極的な連携を行う。 ・地域清掃やふれあいコンサートを実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学科や部活動などの特色を活かした連携を実施し、地域貢献ができたか。 ・地域清掃やふれあいコンサート等地域のイベントに積極的に参加し、社会意識を高めることができたか。 |
| 5<学校管理・学校運営> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の防災対策全体の再点検を行うとともに、生徒の防災スキルの向上を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルの完成度を上げ、防災訓練を充実したものにする。また、生徒対象の災害図上訓練（DIG）を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルがより使いやすくなったか。 ・様々な状況に対応するため生徒が主体的に関わる防災訓練が行えたか。 |

